

令和7年度すくわくプログラム活動報告

江戸川区 小岩保育園

テーマ「 光 」



明るいところは暖かい、暗いところは涼しい等、季節に合わせて子ども達を感じていく中で、自分達で光と影について気づくようになった。ある日、保育室に日差しが差し込む中でカーテンをひかない日があり、制作で使っていたセロハンに光を当ててみた。子ども達が保育室の天井に差し込む日差しに気づき会話し始めてから、制作で使用していたセロハンを窓に貼り、輝くように差し込む日差しや影にも気づき遊び始めた。セロハンを窓に貼り、友達同士で協力して窓一面に貼る。また、テーブルに光が当たり、光が動くことや玩具を奥と、映る影も楽しんでた。時間の経過とともに光の差し込み方に違ってくことにも気づいていた。



「キラキラしてるね！」
「手の色が変わるよ。」
と興奮しながら話していたり、
「一緒にやってみる？」と
友達も誘ったり一緒に楽しんでた。

机にいろいろな玩具を並べて、影のでき方を楽しむ。
時間が経つと、影の大きさが変わって
いくことにも気づいた。



「ねえ！手がすごいことになってる！！」
影が映るものをひとりひとりが持ちよる中で、
光を通す素材のものだけを選ぶ子と、通さないものも持ってきた子といたことで、その違いに気づく子もいた。



子ども達の発見から始まったこの遊の中で、保育士はあえて見守るようにしていた。セロハンに光を当てるなどのちょっとしたきっかけから、「やってみたい」の気持ちがどんどん広がり、思いつくままに玩具を持ち寄り試す姿を見ていると、大人が思いつかないような方法や気づきが見られた。光を玩具にかざす中で、玩具により光と影どちらも楽しむことができ、始めは保育室に日差しが入り、「まぶしくて少し大変」と感じていた子ども達が、このように光が楽しい物と感ずることができ、主体的に遊ぶことができてよかった。

いろいろな玩具を持ち寄る場面では、光を通す素材がわかり持ってくる子と、光を通さない素材のものも持ってくる子がおり、影がしっかりとできることを楽しめると、その影のことも楽しむことができ、いろいろな楽しみ方ができることを子ども達自身が感じるようになってきた。